made by Japanese

上海レポート

ちょっとちがうぜ中国で農業

土下信人（つちした・のぶひと）

1949年愛知県生まれ。95年、沖縄で㈲土下を設立。組織培養技術を活用した苗生産・販売を中心とした農業のコンサルタント業務を開始。上海で組織培養施設への指導を行ない、2003年同地で組織培養会社、上海百奥微繁植物有限公司を設立。HP『大きな国で』を開設。
http://blog.livedoor.jp/touxia/

第60回　頑張れ、グーグル

中国VSグーグル

中国が日本を追い抜いて経済大国第2位になるという年の初め、インターネット検索エンジンの最大手「グーグル」が中国からの撤退を考えていると報じられ。

現在、雲南省を拠点にしている私は、日本のニュースや消費・農業動向などのすべて情報をインターネットで取得している。特に、グーグルが提供しているサービスはいろいろと利用している。

ネット検索のほか、大量に画像が送れるメールソフト「Gメール」、ウェブサイトの閲覧ソフト「グーグル・クローム」、ウェブ上で書類を作成・保存できる「グーグル・ドキュメント」……。それらはすべて無料提供されている。

今や、インターネットなしには、いやグーグルなしには生活できない。

振り返ってみると、グーグルが中国に進出したのは2006年。天安門事件やダライラマに関する検索ができないようにするという中国当局の検閲制度を受け入れてのことだ。13億人のマーケットの魅力に屈したグーグル対して「そりゃないだろ」と思いながらも使わせてもらっていたが、中国で生活しているとそれにも次第に慣れてしまう。グーグル以外の企業にも、そういった規制がかけられたからだ。

オンラインで動画を無料配信している「ユーチューブ（YouTube）」を見ることができないのは、中国ではそそも閲覧できないようになっているからだという。〝つぶやき〟を投稿するコミュニケーションサイトとして話題の「ツイッター（Twitter）」も使うことはできない。最近会った米国人は、米国でよく使われるソーシャル・ネットワーキング・サービスの「フェイスブック（Facebook）」（日本の「ミクシィ」のようなもの）を見ることができないと言っていた。チベットのラサに行った日本人は、新疆ウイグル自治区ではインターネットのほか、携帯電話のショートメールもできないという。

グーグルが起こした波紋は気がつかないうちに中国に大きな事件として広がっている。

グーグルは、中国政府が主導的にサイバーテロを行ない、自由を求める中国人のメールに侵入しようとしたため、Gメールをすべて暗号化したと発表した。中国と外国企業が自由と民主主義を巡って戦争を始めたのである。グーグルの中国本社には、同社に共感する人々から、激励のメールや励ましの花束などが贈られている。

都合のいい国

実は、私がヤフーで開設しているホームページ（www.geocities.jp/xinrenshanghai）は、日本では見ることができるが、中国からはアクセスできない。中国の悪口を書いているせいかもしれない。

また、新年早々、食堂で置き引きに会い、カバンを中に入れていたパソコンごと盗まれた。警察には「中国はヒトが多い。どうしようもない。不注意のあんたが悪い」と逆に説教される始末。仕方がなくネットカフェに行くと、パスポートがないとネットは使えないという。以前はパスポートなしだったが、そこまで規制されるのか。

中国では政治や権力を握ったものが金持ちである。あくせくと働く民は1年で1万元（約13万円）くらいしか稼げない。私の知っている共産党幹部の息子は1万元を一晩で使ってしまう。格差の現実感はそんな形でどっかりと中国に居座っている。

権力があれば金もあって簡単にヒトをひざまずかせることができる国では、あえぐ民がインターネットを武器にしようとしても閉鎖してしまえばいいことなのだ。中国は都合のいい人たちにとっては、都合のいい国なのである。